

## とんでもない この金額！ ごみ失政の つけは誰が 払うの？

小金井市には現在、可燃ごみの処理場がありません。9年後に小金井市内で共同処理を行うことを前提に、一部の処理を国分寺に、さらに西多摩衛生組合をはじめ、あちこちに「広域支援」による処理を頼んでいます。

中央線沿線最古の二枚橋の炉の老朽化は以前から問題でしたから、二枚橋衛生組合の他の二市（府中市と調布市）はすでに代替の処分方法を考えていましたが、小金井市は何の方策も取らずにきました。これは市の失政といっても過言ではありません。

2006年度の可燃ごみの発生量は17,996t。2007年度は市民の努力によって減少し16,857tです。それなのに処理費用は6億8640万9千円から12億5923万3千円へと倍近くに増えてしまいました。このような状態が今後十年近く続くのでは、財政の途方もない無駄遣いとなることは誰の眼にも明らかです。それを負担させられるのは私たち市民です。



## 次のごみ処分地も 二枚橋？ ～「市民検討委員会」の答申

小金井市は公募市民と専門家、団体代表による「新焼却施設建設場所選定等市民検討委員会」(略して「市民検討委員会」)を2007

年6月から翌年8月まで開催。「新ごみ処理施設の建設場所として二枚橋焼却場用地を選定します」との答申と提言が提出されました。

二枚橋跡地11,502㎡のうち小金井市分は4,199㎡しかありません。市は市民検討委員会に候補地としてジャノメ跡地と二枚橋跡地を挙げましたが、二枚橋は他市の所有地を含む土地です。調布市は二枚橋に焼却場を作ることに反対していますし、府中市は隣接地に保育園を計画しています。また、1967年以来、付近の住民はごみ焼却による公害に苦しんできました。再びこの場所に「焼却」場を建てることはできないと思います。

来年4月には新たな市民検討委員会を設置して建設計画をつくり、処理方式については別に専門家委員会も予定されています。いずれも小金井市と国分寺市との共同開催です。両市の調整や市民検討委員会と専門家委員会との関係など課題はたくさんありますが、非焼却も選択肢として検討できる人選が重要です。

来年の市民検討  
委員会で  
「非焼却」方式の  
選択を

可燃ごみを処理するには、焼却方式と非焼却方式があります。焼却方式はコストが高つき、さまざまな公害の原因になることから、非焼却方式を検討する必要があるのではないかと思います。

## 亜臨界水処理 施設を見学

10月4日 秋晴れの土曜日に、岐阜県大垣市の「イビデン大垣中央事業所」(亜臨界水<註>による生ごみの分解処理施設)を見学しました。

イビデンは一部上場企業で、コンピューターや携帯電話の部品等で世界的に知られる精密機器のメーカーです。社内の食堂と市内の給食センターからの生ごみを処理する施設を9月から稼動しています。

この日は給食残渣30kgを投入・処理するところを見学しました。ホッパーからごみを投入し、約200、20気圧の亜臨界水を高圧ボイラーへ供給し、内部を自動攪拌しながら反応させ、その後冷却して圧力を大気圧まで下げます。この間約30分。バルブを開けると、ごみは分解され液状化しており、勢いよく暗褐色の液体が排出されるのが見えました。この液体のBOD(生物学的酸素要求量)は60,000~80,000ppmです。数グラム程度の固形物が残ったほかは全ての生ごみが分解されました。これを3つの水槽で微生物(菌)処理し、約2日かけて

BOD20ppm程度まで浄化します。浄化された水は本当に透き通っていて、鯉などの生存は可能とのことでした。これは河川放流の基準値のさらに3分の1をクリアしているとのこと。処理の過程で発生する汚泥をまた亜臨界水処理することにより、まったく余剰汚泥を出さないシステムとなっていました。

### 小金井市で採用できるか？

私は、亜臨界水処理の「実験」施設(新潟県長岡市)と「実証」施設(今回)を見学し、小金井市などの自治体が採用できるかどうかを考えてみました。問題は、投入量が日量100t(国分寺との共同処理となるため)もあることや、水槽で使う微生物(菌)の管理が簡単にできるのかどうか、などです。しかし、焼却炉よりはコストが安上り(約半分ですむ)で、公害の心配が少なく、設置場所もかなり狭くてもよい(上部階や地下も利用できる)などの利点があります。

見学した処理機は、染料タンクメーカーの藤村通商と静岡大学が開発し、イビデンがもともと持っていた優れた水処理技術をドッキング、活用したものです。(梶野町 市原記)

## 炭素化 ごみを資源に変える処理方式

非焼却処理の方法の一つに「炭化」「炭素化」があります。

「炭化」は炉内を密閉して蒸し焼きにする方法ですが、空気(酸素)が完全に断たれてはいません。炉内の温度は800、有機物が酸素と結びついて燃焼し、そのときに発生する熱によって炭化が進みます。

「炭素化」は炉内を窒素によって充満し、酸素の存在しない状態の還元雰囲気内で組成分離を行うものです。

炉内温度は3段階に分け、最高温度450の低温熱分解を行います。酸素がないからダイオキシンも出ません。紙や生ごみなど炭素を含むものは炭素になり、プラスチック類は分解され石油(重油相当)、塩素ガスは塩酸として取り出すことができます。取り出した炭素を精製すれば炭素繊維、建築材等幅広い需要が見込めます。

ごみを資源に変える新しい処理方式です。(中町 加藤記)

<註> 亜臨界水とは、一定条件の温度と圧力を加えることによって、水が物質分解の働きをもつようになったもののこと。超臨界水がすでに知られているが、亜臨界水はそれよりも温度や圧力が低くてすむ。

# 小金井市の取るべき道は？

従来の堆肥化はその一つですがそのほかに、「亜臨界水処理」「炭素化」「高速発酵・乾燥減容処理」などがあります。以下、それぞれについて簡単にご紹介します。

## (株) E E N ごみの炭素化施設を見学

10月10日、入間市にある炭素化の実証施設を見学しました。煙突のない施設で、生ごみのほかにタイヤ・ヘルメット・靴・竹箒などがピットへ入れられたあと、炭素化の工程6時間を経て出されるところを見学しました。驚いたのは、全てもとの形を保ち、炭素化して真黒に縮んで出てきたことです。パイナップルもそのままの形で紙のように軽くなっており、触れるとすぐ崩れてしまうとのことでした。

炉の中の空気を追い出すために窒素を充填させる事が一つのポイントで、温度は最高で450℃、気圧は外気圧と比べ0.5気圧しか変わらないそうです。生成物(炭)は、脱臭・土壌の改良・水質の改善に大変有効だとのことでした。金属類はそのまま出てきますので分別して再利用できます。設備本体はステンレスで、「100年は使える」とのことでした。価格は80トン対応型で40億円。メンテナンスや操業のテクニックに問題はなさそうです。場所もそれほど取らず、環境アセスメントも不要な安全なものであることに、私は将来性を感じました。(梶野町 市原記)



## 高速発酵 乾燥減容処理 微生物の不思議な働きを使って

含水率の高い有機性廃棄物(生ごみなど)を高速・低エネルギーで乾燥する「減圧乾燥機能」と、短時間で分解し、肥料・飼料にする「高速発酵機能」を備えた処理方式です。

密閉式ドラム(発酵槽)の中に水分を含んだままの生ごみなどと種菌を投入してから、減圧すると共にボイラーで60℃加熱し攪拌します。これにより水分が蒸発し、同時に微生物が減圧環境下で活性化され高速発酵が起こります。ほぼ真空乾燥により2時間程度で水分が10~20%になるに加えて、発酵作用により有機物(生ごみ)の一部が分解されます。

目的に応じて分解率は1%から90%に設定でき、肥料原料等に供されます。種菌は自然界に存在する土壌菌を馴らしたものを使い、酸素の少ないドラム中で生き残りをかけて有機物の分子の酸素を取り込もうとする微生物の働きを利用した安全で新しい処理方式です。(中町 加藤記)

# 使ってみました

## -ごみ処理@家庭

小金井市は生ごみの家庭用処理機に補助金を出しており、家庭用の処理機を使って自分で生ごみを減らしている市民が増えています。そこで、3つの体験談をご紹介します。

### ほとんど趣味の世界

#### 生ごみ処理機「くうたくん」

団地住まいとしては室内で使えるのが魅力で、3年前に5万5千円で購入。市から半額補助がありました。

電気がまを二まわり大きくしたような形状で、台所に鎮座しています。

音は洗濯機より小さいくらいですが、魚のあらや1日おいたごみなどは処理するときけっこう臭います。我が家は5人家族ですが、少人数ならもっと小さいので十分です。1回の処理は2時間くらい。消費電力は770Wとありますが、かなり熱を発生します。

ごみの量は劇的に減り、夏場の腐敗臭が解決できて重宝していますが、乾燥ごみを「燃やすごみ」に出すのはちょっと残念です。(梶野町 永田記)

竹の繊維と消化酵素を混ぜたものを基材として用いる。少量の水分と油分を加えて活性化し、厨芥を日量300g程度投入し、攪拌する。生ごみは完全に水と炭酸ガスに分解する。ぼかぼかと温かな「くうたくん」をかき回しているとなぜか癒されてしまう自分を見出す。だが消化中はやや匂いがするし、戸外に設置すると虫がわきやすい。しかも冬は冬眠(消化活動が停止に近い状態)する。家族が多くてごみが多い我家にとって「くうたくん」はほとんど趣味の世界かも。

(梶野町 市原記)

#### 生ごみ乾燥機「ナショナル生ごみ処理機(家庭用)MS-N47」を使っています。

### 順調です!

#### ダンボールコンポスト

私は一番簡単な生ごみコンポストをしています。庭にダンボール箱の底を切り抜いて半分の高さに埋め、その中へ生ごみを投入し、少量の腐葉土か庭の土をかぶせます。投入時以外は、蓋をかぶせておきます。蓋は、板切れで十分。雨に濡れたりしてダンボールはくたびれてきます。それで現在は、45リットル位のゴミ箱(ペール)の底をくりぬき、土にペールの高さの半分以上、かなり深くまで埋めて使っています。ペールの蓋が使えるので便利です。それにダンボールと違って、くたびれませんから。もう半年ぐらいいやっています。なにしろ仕事が惣菜屋とあって生ごみは毎日1kgはでるんじゃないかな。でも、コンポストのごみは溢れたりせず上手に行っています。安上がりで、簡単で、庭さえあれば誰でもできますから一番良いと思っています。(緑町 岡田談)

「市民自治こがねい」は  
わたしたち市民の力で小金井市を変えたい!  
市民の想いや考えを  
福祉やまちづくりに生かしたい!  
人権が尊重され、自治が息づく  
小金井市にしたい!

そんな考えの市民が集まり、  
漢人あきこさんを市議会に送り出し、  
小金井のさまざまな問題を話し合っています。  
どなたでも気軽にご参加ください。

詳しくはホームページをご覧ください。  
<http://www.ne.jp/asahi/siminjiti/koganei/>

会員になってください  
会費 1口=3000円/年(できれば2口以上)  
・賛助会費 1口=1万円/年  
・ニュースカンパ 1口=1000円/年  
・郵便振替 00130-6-352041

### 心地よい空間でスローライフを語ろう

#### 1日だけのCafé ぼちぼち

日時 11月23日(日)午後1時~6時

場所 萌え木ホール

ライブ サヨコ&チーキーズ

トークライブ 子どもだってスローライフ

FOOD ぼちぼち市 いろいろ

主催:市民自治こがねい



編集後記: 完璧を求めていたら現状は変わりません。動き出すのが大事。日本のごみ問題最先端の上勝町だって20%は隣町で焼却しながら更なる奮闘中。まだ手探りの部分はあっても小金井市が選択すべきは非焼却システム。未来への責任です。(漢人)

<古紙100%再生紙使用>

\*製紙会社からの証明書を発行していただきました。

純パルプ紙をやめ再生紙にすると、70%省エネ、74%汚染物質減、薬品使用量は20分の1です。